

# 令和6年度 広島県 英語教育改善プラン

## 目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

○授業における児童の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合（R5：95.1%⇒R6：98%以上）

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における、児童の英語による言語活動時間の割合が増加（前年度比+1.6）。R4:93.5%→R5:95.1%

②授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加（前年度比+7.4）。

R4:59.3%→R5:66.7%

③「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」を評価するパフォーマンステストの状況が改善（前年度比+0.8）。

R4:99.2%→R5:100%

④「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定状況等が改善。

（設定：100%、公表：98.4%、達成状況の把握：99.7%）

⑤「児童が1人1台端末を活用した授業」を実施した学校の割合が増加（前年度比+2.0）。

R4:97.7%→R5:99.7%

未だ改善が必要な点

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が目標値に達していない。（R5:95.1% / 目標：98%以上）

### 2. 要因分析

①②研修等を通じて、「言語活動を中心に据えた授業」を展開することが浸透し、英語による言語活動を行う教員が増加している。また、教員自身が積極的に英語を用いて授業を行うことにより、児童の英語による言語活動が充実してきている。

③目標、指導と評価の一体化の観点から、児童に身に付けさせたい力の具体を明確にし、その力が身に付いたかを見取るための評価を実施する教員が増加している。

④小中連携や研修等を通じ、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用が進んでいる。

⑤研修等を通じ、デジタル教科書やデジタル教材の活用が進み、実際に授業で活用する教員が増加している。

①児童の英語による言語活動の取組において、地域間、学校間でばらつきが見られる。言語活動については理解しているものの、実践に結びついていないことが要因と考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### 小学校外国語教育推進研修 ①②③④⑤①

《趣旨》

小学校外国語教育の円滑な実施と充実を図るため、各地域の中核となる教員を小学校英語専科教員として加配措置し、小学校外国語教育の課題に対応した授業改善に向けた実践的な研修を実施し、児童の英語力の向上を図る。

《内容》

- ・小学校英語専科教員を対象とした研修を年3回開催し、指導力及び専門性の向上を図る。
- ・研修のうち2回は、小学校英語専科教員の代表者による研究授業・研究協議等を行い、実際の授業を通じた指導力向上を図る。
- ・外部専門機関等から有識者を講師として招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。
- ・小学校英語専科教員による好事例を基に、小学校外国語教育に関する指導資料を作成し、県内に普及する。

#### 基礎からはじめる小学校外国語授業づくり研修会

①②③④⑤①

《趣旨》

小学校外国語活動及び小学校外国語科において、今求められる基礎的な授業づくりに関する理解を深め、各校における授業改善に資する。

《内容》

- ・小学校外国語の基本的な授業づくりについて、オンラインによる短時間の理論研修を行う。

#### 小学校外国語活動・外国語 お助けデータバンク

①②③④⑤①

文部科学省から発信されている資料やMEXTchannel等の紹介、県独自で作成した研修資料及び指導パッケージ等を一元化したコンテンツを作成し、県内全ての教員が活用できるようにする。

■新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を、R7年度に50%にすることを目標に、段階的に確保していく。

# 令和6年度 広島県 英語教育改善プラン

## 目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 (R5 : 47.3% ⇒ R6 : 50.0%)

○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合 (R5 : 71.3% ⇒ R6 : 87.5%以上)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が増加 (前年度比 + 2.3)。

R4:45.0%→R5:47.3%

②CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師の割合が増加 (前年度比 + 0.4)。

R4:48.6%→R5:49.0%

③小中連携を実施している学校の割合が増加 (前年度比 + 4.0)。

R4:82.5%→R5:86.5%

未だ改善が必要な点

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が減少している (前年度比 ▲10.0)。

R4:81.3%→R5:71.3%

②R5全国学力・学習状況調査の教科調査の結果から、「書くこと」に課題が見られた (全国比「書くこと」▲3.1)。

③広島県独自調査の結果から、生徒が英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲に課題がある。

### 2. 要因分析

①外国語科における資質・能力を育成するための授業改善が図られた。また、県内全中学校において英検IBAを実施することにより、共通の尺度で生徒の英語力を測ることが可能となった。

②英語担当教師の自身の英語力向上に対する意識が向上した。

③外国語教育担当指導主事会や研修、学校訪問指導等により、小学校との学びの連続性を意識した指導の充実が図られた。

①英語担当教師と生徒又は生徒同士が英語による豊富なコミュニケーションを図りながら、言語活動を通して資質・能力を育成するという考えが十分に浸透していない。

②英語で伝えたい内容は思いつくが、伝えるための英語表現等が十分に身に付いておらず、実際に話したり、書いたりすることができていない。

③生徒にとって英語を使う必然性のある場面が十分設定されておらず、自分の考えや気持ちなどを伝え合う楽しさや喜びを実感できていない。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①②③

#### 指導力向上に向けた教員研修の実施

- ・3年間を通じたテーマ(「目標」「指導」「評価」)を設定し、英語担当教師の指導力向上に向けた研修を実施するとともに、指定校をはじめとする先進的な授業づくり、教育課程外の取組等、好事例を発信する。
- ・中学校外国語科における授業づくりのポイントをリーフレットにまとめ、全校に配付するとともに、県教育委員会ホームページに掲載する。

#### 中学校英語授業の効果的な指導方法(5ラウンドシステム)等に関する実践的研究

- ・5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を実施する(研究推進校3校、協力校6校)。

①②

#### 外国語教育の充実に向けた学校訪問の実施

- ・希望する中学校等に対して学校訪問を行い、生徒の実態やアセスメントテストの結果等を踏まえ、授業改善に向けた協議及び指導・助言を行う。

#### 英語アセスメントテストの実施

- ・県内公立中学校の全生徒を対象に英検IBAを実施する。

③

#### 「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

- ・県教育委員会が海外の教育機関等と連携してプラットフォームを構築し、県内の中学校等のニーズに対応した学校を紹介するとともに、交流授業等の実施を支援する(参加校11校)。

#### English for Communication事業

- ・外国語指導助手(ALT)や英語が堪能な地域人材を活用し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができるイベント等を教育課程外で実施する。

# 令和6年度 広島県 英語教育改善プラン

## 目標

英語による言語活動を充実させ、五つの領域の資質・能力（聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く）を総合的に向上させる

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（R5：A2以上 49.6%、B1以上 19.7% ⇒ R6：A2以上 53%、B1以上 23%）

○授業中50%以上の時間言語活動を行っている生徒の割合（R5：49.4% ⇒ R6：55%）

## 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加した。

(R4:A2以上 48.9%  
⇒ R5:A2以上 49.6%)

②CEFR B2レベル相当以上取得している教師の割合が増加した。

(R4:82.9% ⇒ R5:94.7%)

未だ改善が必要な点

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が減少した。

(R4:52.0% ⇒ R5:49.4%)

②発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が減少した。

(R4:28.3% ⇒ R5:21.5%)

③CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合は、全国平均を下回っている。

(広島県：A2以上 49.6%、B1以上 19.7%  
／全国：A2以上 50.6%、B1以上 19.8%)

## 2. 要因分析

①県の調査において、「学習した文法事項や表現を用いて日常生活にかかわる内容を理解したり表現したりする活動を取り入れている。」と回答した生徒の割合が増加しており、言語活動の充実が図られたため、生徒の英語力が向上したと考えられる。

	R01	R02	R03	R04	R05
肯定的回答	84.2%	91.2%	95.4%	94.9%	97.9%

②教員が「小・中・高等学校教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度」を活用し、積極的に受験したことで、取得者数が増加したと考えられる。

①②県の調査において、「普段から主に英語で授業を展開している」と回答した学校の割合は増加傾向にあるが、「よく当てはまる」と回答した学校については、15%以下であり、授業中に教員及び生徒が英語を用いて言語活動を行う場面が、部分的・限定的なものにとどまっていることが考えられる。

	R01	R02	R03	R04	R05
肯定的回答	50.0%	60.1%	50.7%	56.7%	66.0%
よく当てはまる	6.2%	5.9%	8.9%	15.0%	12.5%
やや当てはまる	43.8%	54.2%	41.8%	41.7%	53.4%

③目指す生徒像のイメージが明確でなく、生徒に身に付けさせたい資質・能力が教員間で十分に共有されていないことが考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

①②言語活動の充実を図る研修会の充実及び好事例の共有化

・「話すこと〔やり取り〕」に係るパフォーマンステストの実施について「パフォーマンステスト実施報告書」により報告させ、テストの内容だけでなく、指導及び評価等についても客観的に振り返り、指導の改善につなげることで、生徒の言語活動の充実を図る。

・前年度に各学校が提出した「パフォーマンステスト実施報告書」を共有フォルダにアップロードし、他校の実践例を参考にし、指導の改善につなげることで、生徒の言語活動の充実を図る。

③「CAN-DO形式」による学習到達目標の活用の促進  
学習指導案及び「パフォーマンステスト実施報告書」等に単元目標と「CAN-DO形式」による学習到達目標との関わりを明記することにより、つながりを意識した単元計画を策定し、指導することにより、目指す生徒像のイメージとともに身に付けさせたい資質・能力の共有化を図る。

広島県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	49.6	53		55		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	19.7	23		25		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	55	49.4	55		60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	58.0	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	82.2	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90	94.7	95		96		97		97		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	21.5	50		55		60		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47.3	50		60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	87.5	71.3	87.5		90		92.5		95		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	49	50		50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	64.6	85		85		85		85			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	98.4	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	99.7	100		100		100		100